

魔法の Medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:長谷川雅美 所属:太田市立沢野小学校

キーワード:ダウン症 知的障害 学習支援

【対象児の情報】

○学年 小学校3年生(9歳)

○障害名 知的障がい(療育手帳あり) ダウン症 構音障がい

○障害と困難の内容

- ・ 発音が不明瞭であるため、担任が聞き取れる言葉は相変わらず少ない。最初と最後の発音が強く、途中は近い発音に聞こえ、発語も言葉の繰り返し、語尾の模倣のみになりがちで、聞き取れない発音が多い。
- ・ 鉛筆をもって、筆圧がないため、文字の形を正確に書くことは難しい。
- ・ ひらがなやカタカナ、小学校1年生で学習する漢字は、読める。
- ・ 人懐っこく、協力学級の友達と一緒にいることが好きで、協力学級の授業には積極的に出かける。学習内容や活動よりも、友達といることが楽しいようだ。

【活動目的】

○当初のねらい

- ①「伝えたい」という意欲を支えることで、気持ちを伝える方法を身に付ける
- ②「読みたい」「書きたい」という意欲を支えることで、文字の読み書きを身に付ける。
- ③「お役に立てる」という意欲を支えることで、人との関わりを広げる。

○実施期間

○実施者 長谷川雅美

○実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

(読む)

- ・ ひらがなやカタカナ、小学校1年生の漢字は読める。不明瞭な発音ではあるが、小学校1年の教科書程度であれば、初見でも読むことができる。

(書く)

- ・ 鉛筆をもって筆圧がないため、形の整った文字を書くことは難しい。
- ・ 教科書をそばに置いた状態で教科書の文字を視写することはできる。また、黒板の文字を写すときは、一度写真に撮ってから、視写する方が書きやすいようだ。
- ・ 自分が知っている日常的な簡単な単語は、声に出して何度も確認しながらであるが、ひらがなやカタカナで書くことができる。

(話す)

- ・ 不明瞭な発音ではあるが、算数の問題を見て、「むずかしい」と言ったり、休み時間の過ごし方を聞くと「ビデオ」と言ったりするなど、自分の気持ちを伝えようとしている。

- ・ 理解している言葉は多いが、自分の思いを伝える言葉は少ない。また、それを伝える方法があまり持っていないようだ。

(計算する)

- ・ 2位数同士の足し算、引き算は、筆算ならできる。

(行動)

- ・ 授業中の活動や給食の準備など、手順が2つまでなら、指示を忘れずに、自分でできる。
- ・ 人のまねをしたり、褒められたりすることが、好きである。
- ・ 協力学級でも支援学級でも、一方的に単語を発していることが多い。何を言いたいのか、言葉が聞き取れず、周囲は状況から理解をしている。

○活動の具体的な内容

(1)「伝えたい」という意欲を支えることで、気持ちを伝える方法を身に付ける

①「伝えたい」場の意図的な設定のために

活動場所	使用したアプリなど	主な活動方法	頻度
学 校 家 庭	PhotoMemes Palu  	学校や家庭で気に入った活動を写真や簡単な言葉で記録する。特に、写真を撮ることで、情報を共有できるようにする。家族と気持ちを伝え合う練習する。	毎日

②「伝えるため」の方法の模索のために

活動場所	使用したアプリなど	主な活動方法	頻度
学 校	五十音配列キーボード  3秒日記 こどもレター  	言葉の不明朗さを文字で補ったり、コメントを書いたりする。 写真に添える簡単な文を書かせる。気持ちを表す言葉を選んだり、書いたりする。	毎日

(2)「読みたい」「書きたい」という意欲を支えることで、文字の読み書きを身に付ける。

①「読み」「書き」の習得のために

活動場所	使用したアプリなど	主な活動方法	頻 度
学 校	小2かん字  デイジー教科書 	漢字練習 音との一致を促す。また、宿題として活用する。	毎日パワーアップタイム(15分)

学 校	NHK for School  3秒日記 こどもレター   カメラ機能 	学習の見通しを持たせたり、イメージ化を支えたりする。 文章化を支える。 ノートテイクの弱さを支える。	理科 社会 算数 国語 国語 特別の教科 道徳
家 庭	小2かん字 デイジー教科書  	宿題として使用する。	毎日

② 学習全般に対し意欲を持たせるために

活動場所	使用したアプリなど	主な活動方法	頻 度
学 校	ねずみタイマー DropTalk  	時間を意識させたり、ゴールを示したりすることで活動に見通しを持たせる。	必要に応じて

(3)「お役に立てる」という意欲を支えることで、人との関わりを広げる。

① ありがとうの手紙を配達

活動場所	使用したアプリなど	主な活動方法	頻 度
学 校	カメラ機能 DropTalk  	場所と配達の順番の確認をする。	配達の間 時間

○対象児の変化

(1)「伝えたい」という意欲を支えることで、気持ちを伝える方法を身に付ける

(1学期)

登校が始まり、学校のリズムにも慣れ始めた6月の2週目から、アプリ『PhotoMemes』を使い、毎日の給食や授業の様子を記録し、簡単なコメントを添える練習をした。6月の2週目から、簡易給食での学校再開であったが、献立はパン、チーかま、冷凍ミカン、牛乳などであったため、給食が食べられるのかと、担任として心配をしていた。しかし、アプリ『PhotoMemes』で写真を撮ることが励みとなり、完食をめざして食べようとしていた。給食にそえるコメントの入力は、五十音入力であったが、一文字一文字探し、声に出しながら、入力をしていった。夏休みには、保護者の協力を得ながら、毎日の生活の一部を写真に撮り、コメントを書き添えていたようだ。放課後等デイサービスを利用したときは、なかなかできなかつたようであるが、家族で出かけた日などは複数枚記録されており、本児の気持ち

まで伝わってくるようであった。

(2学期)

2学期になって、夏休みの思い出をクラスで発表したときに、タブレットを、自分から持ち出し、アプリ『PhotoMemes』で写真を見せながら、「ももちゃん、見て見て、スイカ、食べたよ。」とうれしそうに話した。また、休み時間に遊びにきた他学年の友達にも、家族で出かけた川や、その帰りに寄ったラーメン屋さんの写真を見せながら、「ラーメン、おいしい」と笑顔で話していた。また、国語の授業、単元「なつやすみの思い出を伝えよう」では、タブレットの写真を見ながら、「いつ、だれが、なにをした」の文を作る際に、それらの写真を利用することができた。



アプリ『PhotoMemes』を使い、実際に自分がとった写真や家族との写真を材料として、それを共有する機会を意図的に設けたことにより、「伝える場」が設定でき、「伝えたいこと」が本児の口から発せられ、大変効果的であった。

10月になると、家庭での様子を写真に撮り、学校でそれを見せながら、話をするようになってきた。「こうえんにいったよ」「スイミング、がんばりました」「じてんしゃ、れんしゅう、のった」「かいもの、いった」と、写真を見せながら、誇らしそうに話していた。11月になると、自転車に乗れたこと、ダンスの練習とスイミングのテストの合格したことが話題の多くを占め、充実した休日の様子を知ることができた。クラスの友達からも、「すごいね」「およげるんだあ、テストも合格したの、すごいね」と共感され、うれしそうであった。10月から、好きなテレビ番組の一場面を撮るなど、自分の興味のあることも写真に撮り、それを話題にすることもが、ほとんどを占めるようになってきたのが特徴的である。毎日の写真とコメントを比べてみても、コメントが長文になっていたり、定規セットが欲しいなどの、本児が伝えたい思いが表れていたりしている。また、助詞も使えるようになってきた。

8月	10月	11月	11月
			
つめたい	かいます かいます	ブランコにのりました たのしかったです	じてんしゃ ひとりでのりました

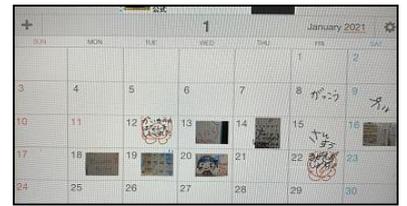
夏休みの最後の週では、生活のリズムを取り戻すため、8時30分から夏の勉強会を行った。そうしたところ、金曜日の夜に、本児から連絡があった。母親のスマホであったが、そこには「がっこういきたい」と書いてあった。母親によると、文章は、フリック入力であったため、母親が手助けをしたが、「い、き、た、い」「た、ま」の文字は、一人で打てたとのことである。私自身、本児の言葉の不明瞭さにも慣れてはきたが、なかなか聞き取れずにいた。このことは、文字を使ったやりとりは、担任のみならず、本児にかかわる人との交流にも役立てていきたいと強く思わせた。また、アプリ『PhotoMemes』や理科ノートで使用している五十音キーボードでの入力などを経験することで、書くことの方法だけでなく伝えることの方法にも使えるのではないかと考えた。この後、2回ラインが送られてきた。



(実際の画面)

(3学期)

アプリ『PhotoMemes』が不具合で使用できない状態になり、代わりに、アプリ『Palu』を使い始めた。手書き入力で、何をしたのかを簡単に書き込んでいた。9日の画面には、「プール」に行ったことが書いてあった。月曜日に学校に来ると、「プール」と書いた文字をうれしそうに見せてきた。また、そこから会話が進んだ。20日には、友達を書いたメッセージボードを見て、「上手」といいながら、写真を撮っていた。「せっかくだから、お家の人に見せてね、はあちゃんが書いたんだよ。」と担任が言うと、「じょうずとかいてください」と画面を見せながら、担任に頼んできた。

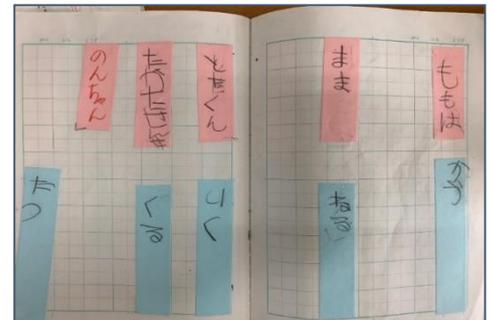


(プールの画面) (「上手」とかいてください)

(2)「読みたい」「書きたい」という意欲を支えることで、文字の読み書きを身に付ける。

(1学期)

6月から学校が再開され、国語の授業では、小学校1年生の教科書から学習を始めた。単元「だれが、どうする」では、「だれ」「どうする」について本児はなかなか理解できず、大変苦戦した。「ともくんが、ご飯をたべました」という文に合わせ、ご飯を食べている写真を見せながら、「だれがご飯を食べていますか」と聞くと、オーム返して「だれが、ごはんをたべますかあ」と返すばかりであった。授業では、主語になる人や動作を写真で見せたり、カードをノートに貼ったりして、支援をしたが、やはりうまくいかず、時間をおいて、取り組むこととした。



(だれ、どうする 授業のノート)

(2学期)

2学期になり、国語の単元「なつやすみのおもいでをつたえよう」で、夏休みにアプリ『PhotoMemes』を使って自分でとった写真を使ったところ、「だれが、どうした」の学習がスムーズに進んだ。まず、自分の撮った写真を見ながら、担任が「だれが、ラーメンを、食べたのですか」と聞くと、本児が「ばあちゃん」と答えたり、「ともくんは、何を食べましたか」と聞くと、「すいか」と答えたりすることができた。そこで、文を作らせた。簡単なものではあるが、「いつ、だれが、なにをした」を口頭で答えてから、それをノートに書くことができた。

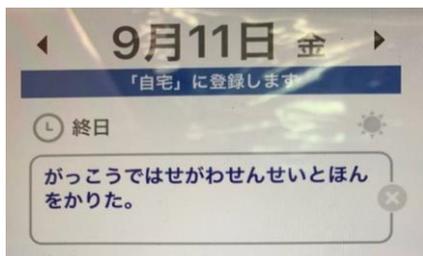


(書き込む様子)

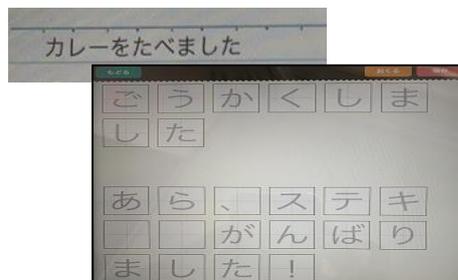
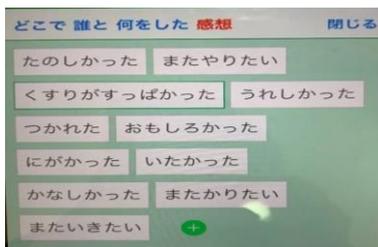
この授業を通して、実際の経験したことが、本児にとって効果のある教材であり、「伝えたいこと」そのものであると実感した。伝える方法を持てていなかった本児ではあるが、それ以上に、担任側が本児の伝えたいことを使って教材を用意していなかったことに気づかされた。

また、このことで本児が、「いつ、だれが、なにをした」などについて、実際に経験したことからならば理解できることがわかったため、アプリ『3秒日記』を取り入れて、文を作らせることとした。アプリ『3秒日記』の「どこで、だれと、なにをした、感想」には、本児が経験したことや使うであろう単語を、あらかじめ、担任が登録しておいた。そうしたところ、「どこで、だれと、なにをした」についてはスムーズに単語を選び、文を完成させることができた。しかし、「感想」については単語が選べず、反映されていなかった。感想の単語は、あらかじめ担任が用意したものであるが、本児にとって、単語そのものが適当であったのか、選択肢の数はどうだったのかなど、今後、再考していかなければならないと感じた。

ころ、本児がたまたま、『こどもレター』というアプリを開いた。このアプリを使って、友達が文章を書いているため、「自分でも」と思い、開いたようであった。担任が、「これで写真に文も書けるしさ、お手紙も書けるしさ」と勧めたところ、「カレーをたべました。。」と五十音配列を使って、入力した。また、このアプリは、レビューがあり、書いたものが大きくなって確認できるため、自分から句読点の間違いに気づき、直すことができた。そこで、今後は、このアプリを使っていくこととした。『こどもレター』を勧める際には、本児が「伝えたくて仕方ない」という表情が出たときに、すぐ書くように促し、使用させるようにした。11月、朝、登校するなり、「25メートル、およげました」「ごうかくしました」を話してくれた日には、朝のうちに入力させた。担任が、「あら、すてき がんばりました！」と付け加えると、うれしそうに笑った。

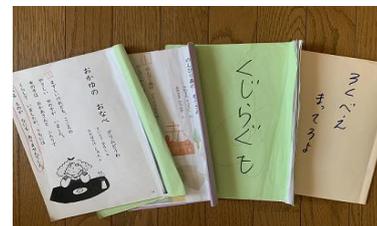


(3秒日記)



(こどもレター)

10月中旬あたりから、本児の本への興味が多種多様になってきた。実際にクラスの本棚にある、さまざまな本を手取るようになってきた。そのため、国語で使用する教材も、教科書だけでなく、読むようになったジャンルに関する教材文を用意するようになった。あわせて、図書室に一人で本を借りに出かけるようになってきた。最初は、「池上彰のニュースがわかる本」であったが、本児なりに10分以上探して決めたと、図書室の先生が話してくれた。この本を見て、本児は「むずかしい」「むずかしい」と言うので、「明日違う本にしたら、返してさ」と担任が言うと、次の日に忘れずに図書室に出向き、違う本を借りてきた。この経験は、自分で、貸出カードに名前を書き、借りる作業ができたことで、自信にもつながり、ひいては本への興味がより広がるのではないかと期待させるものとなった。また、図書委員さんや図書室の先生との会話のやりとりも、楽しみなのではないかと感じた。



(読んでいた本と用意した国語の教材)

読んでいた本	国語で学習した教材文	教科書会社名など
かえるくんがまくんシリーズ	「お手がみ」	教育出版
食べ物の本シリーズ どうぶつの口	「だれがたべたのでしょうか」 「おかゆのおなべ」 「さけがおおきくなるまで」 「スイミー」	教育出版 光村図書 教育出版
のんびり森シリーズ ネコのタクシー	「のんびり森のぞうさん」	光村図書
クジラの図鑑	「くじらぐも」 「ともだちはうみのにおい」	光村図書 NHK for School 「おはなしのくに」視聴 理論社
犬の図鑑 かわいい犬シリーズ	「ろくべえまっていろよ」 「どうぶつ園のじゅうい」	光村図書

(3学期)

1月には、「ろくべえまってるよ」の教材文を使って学習を始めた。単元の最後に、「ろくべえは、どうなると思いますか」と発問したところ、本児は「どうなる」という質問の意味が分からず考え込んでしまった。そうしたところ、隣で話を聞いていた友達が「一緒に考えよう」と言って、学習したノートを見たり、ろくべえの状況を絵で描いたりした。それを見て、一人で「あなから出ました」とノートに書いた。



(友達と考えている様子)

(3)学習全般への興味関心

(算数について)

(1学期)

休校があけた6月から、算数の学習を小学校2年生の教科書(下)の最初から始めた。昨年度は、2位数同士の足し算や引き算を挑戦できるようになったことや、本児の特性でもある「模倣が上手」なことを考え、2週目からかけ算の学習を始めた。

最初は、九九の歌を聞かせた。気持ちが明るくなり、一生懸命に真似して歌っていた。次に、おはじきを使ったり、かけ算カードを使ったりして学習を進めた。休日は、かけ算カードを家に持ち帰り、1枚ずつめくっては、声に出して読んでいた。7月になると、ノートに書かれた九九を使ったかけ算の問題の答えを、たくさんのカードから見つけ、見つけた答えを書き、足し算と九九を使ったかけ算が混ざった問題もスムーズに解けるようになった。

(2学期)

2学期になり、九九の問題でうろ覚えのものは、カードから探すのではなく、教科書から探すようになった。一枚一枚カードを見つけるよりも、教科書のかけ算の表を見て確認する方が、本児には使いやすかったのだと感じた。その後、九九表を一枚渡して、「これもやりやすいと思うけど、使いますか」と聞いたところ、「使わない」と答え、自分のやりやすい教科書を使っていた。

(教科書で)



(あんざんマンで)



また、アプリ『あんざんマン』を使って、問題にチャレンジするようになった。「かけざん、やる」と言っでは、授業の最後の5分間で楽しそうに復習している。自分一人で問題を解き、学習を進められた「かけざん」の学習の成果であろうが、特に算数については、意欲的に取り組むようになった。自信がついたことが、次への学習の意欲につながったと感じた。

(割り算にチャレンジ)

9月になり、本児が自分から、「あれ、やりたい」と言い出した教材が、割り算である。一緒に過ごしている5年生の友達が、割り算を学習していることが大きな要因ではあるが、かけ算ができた自信がある本児にも簡単な割り算にも挑戦させることとした。最初は、おはじきを、2人でわけることから始めた。次に、3人で分けること、4人で分けることを行っている。「ともきさんの分は、何個だったの」と聞くと、自分の分を数えて答えを出すことができるようになった。2人で分けることを学習すると、人数を増やしても同様に学習を進められた。このように、自分だけで「できる」「できた」という経験は、次への学習への大きな意欲があると痛感した。九九を使ったもので、かつ割り切れるものは、スムーズにできるようになった。



10月になり、長さの学習を始めた。15cm 定規を使って、測ったり、線を書いたりできるようになった。また、大きな数の学習をしている1年生に影響され、お金の学習にも興味をもちはじめた。家で

も買い物ごっこをしていると、写真を見せながら、話もしてくれた。12月の最後の日には、近所のスーパーにクラスの友達と買い物に出かけ、買ったものの金額を筆算し、一人で支払うことができた。

(3学期)

(テストの様子)

1月になって、「ともき、テスト」と言い出した。友達がテストに取り組んでいるのを見て、影響されたようだ。そこで、1年生の算数のテストを1学期からすべてやらせることにした。1時間にできる枚数で取り組ませたが、毎時間2枚(両面4枚)のペースで取り組んだ。



(国語について)

(1学期)

(ペープサートとノート)

国語の教材「けんかした山」では、すらすら音読をするものの、文の内容理解には苦戦した。そこで、挿絵だけでなく、ペープサートを作り支援した。本文には、お日さま、お月さま、ことりたちの会話があるのみで、山たちの会話は



ない教材であるが、高い山が何を言っているのかという会話文を考えることで、文の内容を理解させようと考えた。そうしたところ、会話文にあてはまる言葉「た、か、い」を書くことができた。また、ペープサートを使って、考えた会話を言いながら、物語を再現していくことにも、楽しく取り組めた。物語を再現し、クラスの友達に見せることで、「ともくん、高い山みたい」などと友達から称賛され、うれしそうであった。

2学期

(かえるの絵)

本児が興味を持っていそうな教材文を用意し、挿絵を手掛かりに、文章から内容を理解することを目指して、授業を行った。また、最後には、「ともきさんは、どう思ったかな」や「どうなったと思いますか」という、自分の考えを書いたり、言ったりする時間を設けるようにした。「お手がみ」では、「かえるくんは、お手紙をもらってどう思いましたか」と発問したところ、「どう思った」とオーム返しであった。そこで、「かえるくんはどんな顔になったのかあ」と聞いたところ、かえるの絵を描いた。それを見て、担任が、「うれしいのかなあ、かなしいのかなあ、おこっているのかなあ」と聞いたところ、「うれしい」と答えた。この発問、「どう思った」の「どう」の聞き方が、本児には適切な発問ではないと、今後の発問の仕方を再考する機会ともなった。

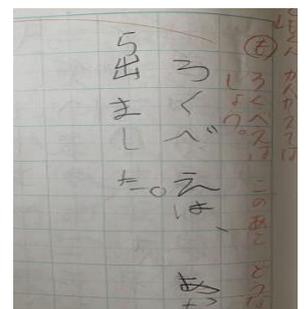


漢字学習では、アプリ『小2かんじ』シリーズを使っている。休校中も、毎日、毎日、計画的に進めることができた。一通り終わったので、再度、登録し直し、宿題に出したところ、「おわったあ。2ねんせい」と言って、2年生に挑戦している。「むずかしい」と言いながらも、継続して取り組んでいる。

3学期

(ろくべえのノート)

今までと同様に、「ろくべえまってるよ」では挿絵を使って、「どんな方法で、ろくべえを助けようとしているの」に視点をあてて、場面ごとにまとめたり、ロールプレイをしてみたりしながら学習をすすめた。また、「どうぶつ園のじゅうい」では、挿絵を手掛かりに動物園の獣医のしごとについてまとめた。挿絵だけでは理解が進まない場面では、動物園の動画を視聴したり、図鑑を見たりしながら学習を進めた。



(3)「お役に立てる」という意欲を支えることで、人との関わりを広げる。

(3学期)

1学年の児童の「お手がみ」の授業が終わった、1月の中旬から、全校に協力してもらい、「お手紙で感謝を伝えよう。わかあゆ学級のかたつむり君が届けます」を始めた。お手紙をポストから回収し、クラスごとに集め、それぞれの教室に届けに行く活動で、届けられた枚数は、1月いっぱい約 2000 枚、回った教室は一日あたり平均6教室であった。

配達を始める際に、最初は、本児を連れてそれぞれ教室を見に行った。どこを見ると確認できるのかということがわかるように、カメラで教室表示板を取り確認をした。また、アプリ『DropTalk』で届ける順番を作った。2回ほど、それを持って出かけたが、3 回目からは、「大丈夫」と言って、郵便物だけをもって配達に出かけた。また、1回目の配達では、アプリ「ねずみタイマー』を使い、時間を制限して始めた。時間設定を10分としたが、スムーズに配達でき、アプリ『DropTalk』同様、使わないで配達を行うようになった。



【報告者の気づきとエビデンスおよびエピソード】

①「伝えたい」という意欲を支えることで、気持ちを伝える方法を身に付ける

気づき

写真を使い伝える経験をしたことで、「自分でも伝えられる」「伝わる」という自信がつき、言葉や文章で伝える方法が身についたのではないかと感じた。

エビデンスおよびエピソード

NO	月日	写真	コメント	NO	月日	写真	コメント
1	6月22日	教科書	コンクリートミキサー車	94	9月15日	給食の写真	みかんをひとりでたべました
11	6月30日	パズル	ロボット	111	10月1日	コンバセットの袋	かいます かいます
20	8月7日	ミニトマト	トマト できた	114	10月2日	掃除用具入れ	ともきのぼうき ここにいれます
23	8月7日	スイカを抱っこ	スイカ おもい	137	10月6日	自転車	のりました たのしいです
24	8月7日	スイカ	スイカ おいしそう	139	10月6日	買い物	グミをかいました ひとりでかいました
48	8月22日	自転車	じてんしゃ かいました	141	10月16日	あんざんマン	しゅくだい がんばりました
54	8月29日	かき氷	つめたい	145	10月17日	あんざんマン	できました むずかしい
64	9月4日	給食の写真	かんしょく おいしかったです	154	11月11日	ブランコ	ブランコにのりました たのしかったです
67	9月6日	ハッピーターン	おいしいです たべます	157	11月6日	あんざんマン	できました わりざんをやりました
72	9月7日	国語の教科書	しゅくだいです わすれないでね	161	11月6日	ステーキ	にく おいしかったです
74	9月8日	サラダ	レタスタべました きゅうりはすぎです	163	11月14日	自転車	ひとりで のりました
75	9月10日	カレー	おいしいです	165	11月21日	落花生	かずこ先生にもりました
85	9月11日	給食の写真	おかず はんぶんのこしました	166	11月21日	落花生	ない
86	9月12日	テレビの画面	スイカヘルメット すき	170	11月26日	プール	25メートルおよぎました つかれました
92	9月14日	なつみかん	すっぱい	172	11月29日	みかん	ひとりでむけました おいしかったです
				174	12月26日	ドラッグストア	ひとりでかいものに行きました

写真に添えられたコメントを比較すると、最初は、写真に写っているものを単語で書き添えていたが、10月あたりからは、自分の気持ちや、様子がわかる言葉が含まれるようになってきた。また、助詞も使えるようになってきた。

②「読みたい」「書きたい」という意欲を支えることで、文字の読み書きを身に付ける

気づき

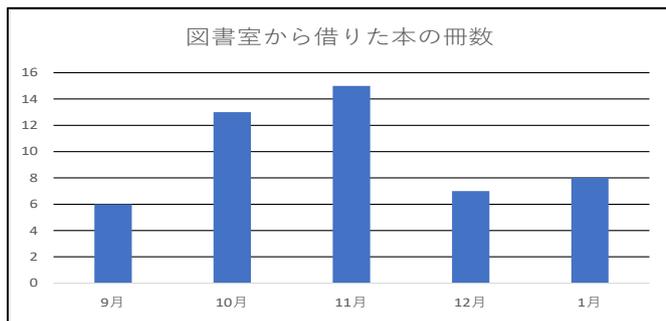
継続してアプリを使った学習をすることを通して獲得した、「読めた」「書けた」「わかった」という自信が、「もっといろいろな本が読みたい」という意欲や、学習への意欲に繋がったのではないかと感じた。

エビデンスおよびエピソード

文字が読めるようになってきたり、文の内容も分かったりしたことで、自分から本を読む意欲が向上し、図書室で本を借りる活動に繋がったと考えられる。また、学習で得た自信が、算数の学習への意

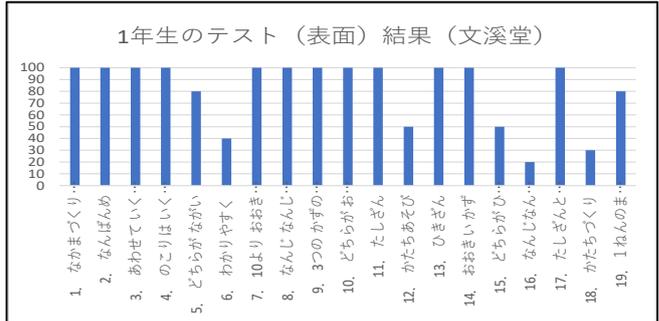
欲に繋がり、結果的に学習内容の定着にも良い影響が出たと考えられる。

図書室から借りた本の冊数



すべて、20分休みに、一人で図書室に出かけて、図書室での会話も楽しみながら、借りている。12月と1月は、図書室の開館日は減り、行けなかったため、減少していると考えられる。

算数のテスト(表面)の結果



算数のテストでは、「どちらがながい」「どちらがひろい」「なんじ」「わかりやすく」で苦戦しているが、足し算や引き算といった計算については、ほとんど100点である。2年生のかけ算のテストは100点であった。

③ 「お役に立てる」という意欲を支えることで、人との関わりを広げる

気づき

配達の実験を通して、一人でもできる自信とわからなかったら誰かに聞くという方法や、配達終了時に「ありがとうね」と声をかけられたり、感謝の手紙をもらったりして自己有用感を得たことで、より人との関わりに興味を持ち始めたのではないか。

エビデンスおよびエピソード

配達3回目では、途中、5年生のお兄さんに、「5年4組はどこですか」と聞いていた。お兄さんが、指をさして教えてくれたことに対して、「ありがとうございまあす」と笑顔で挨拶をしていた。その後、無事届けて、自分の教室に帰ってきた。学校ブログで紹介したところ、いろいろな子供たちが、本児に声をかけてくれるようになった。

(実際の、ブログの画面)



○今後に向けて

来年度は、本市で一人一台に支給される Chromebook を取り入れながら、今まで同様、自分の iPad を使い、「わからないことは自分で調べること」を目指して、支援を進めたい。また、今まで学習に使用していたアプリも、必要に応じて自分から使えるようになることも期待し、支援していきたい。